

報道関係者各位
プレスリリース

2026 年 9 月 10 日
公益財団法人 武田科学振興財団

2026 年度「武田医学賞」受賞者 荒瀬 尚 博士、胡桃坂 仁志 博士に決定

公益財団法人 武田科学振興財団（理事長 飯澤祐史、所在地 大阪市中心区）は、2026 年度「武田医学賞」を下記の 2 氏に授与することを決定しました。

授賞式を 2026 年 11 月 12 日（木）午後 6 時よりオークラ東京において開催し、受賞者には賞状、賞牌、楯ならびに 1 件につき副賞 3,000 万円を贈呈します。

武田医学賞は、我が国で最も伝統のある医学賞の一つであり、医学界で顕著な業績を挙げ、医学ならびに医療に優れた貢献を果たされた研究者に授与されます。1954 年に初めての授与が行われ、本年度で創設 72 年目を迎えます。武田医学賞の受賞者数は、本年度を含めて 145 名となります。

記

荒瀬 尚 博士（あらせ ひさし）

大阪大学 教授 （60 歳）

受賞テーマ： 宿主－病原体相互作用に基づく疾患発症機構の解明

胡桃坂 仁志 博士（くるみざか ひとし）

東京大学 教授 （59 歳）

受賞テーマ： クロマチン構造研究によるエピジェネティクス制御機構の解明と疾患研究への展開



荒瀬 尚 博士



胡桃坂 仁志 博士

■ 荒瀬 尚 博士

<学歴・職歴>

1990 年 3 月 北海道大学 医学部 卒業
1994 年 3 月 北海道大学 大学院医学研究科博士課程 修了
1994 年 4 月 千葉大学 医学部 附属高次機能制御研究センター遺伝子情報分野 助手
2000 年 8 月 カリフォルニア大学 サンフランシスコ校 研究員
2002 年 8 月 千葉大学 大学院医学研究院 遺伝子制御学 助教授
2004 年 2 月 大阪大学 微生物病研究所 免疫化学分野 助教授
2006 年 6 月～ 大阪大学 微生物病研究所 免疫化学分野 教授
2007 年 10 月～ 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫化学研究室 教授
2019 年 4 月～ 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 副拠点長

<受賞歴>

2011 年 第 14 回 日本免疫学会賞
2013 年 科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門)
2020 年 第 63 回 野口英世記念医学賞
2021 年 第 58 回 ベルツ賞
2023 年 第 4 回 太田原豊一賞
2025 年 持田記念学術賞

<研究業績>

受賞テーマ：宿主－病原体相互作用に基づく疾患発症機構の解明

荒瀬 尚博士は、病原体に対する免疫応答や病原体に起因する免疫異常を解明するため、宿主－病原体相互作用に基づく免疫制御機構を長年にわたり一貫して研究してきた。特に、ウイルスやマラリア原虫など、宿主に依存して増殖する病原体が、宿主の免疫応答から逃避する機構をいかに獲得してきたのか、これに対して宿主免疫がどのように進化してきたのか、さらに、病原体が自己免疫疾患の発症にどのように関与するのかを明らかにし、顕著な業績を上げてきた。なかでも、エプスタイン・バーウイルスの再活性化などに伴うインバリアント鎖の発現低下により、MHC クラス II 分子に通常は提示されない「ネオセルフ抗原」（正常な自己分子とは異なる抗原性を示す自己分子）が提示され得ることを見だし、ネオセルフ抗原の提示が自己免疫疾患の主要な発症要因となり得ることを提唱した。この成果は、T 細胞がセルフとネオセルフを識別するという新たな免疫識別機構を示し、従来のセルフトンセルフ（自己－非自己）の識別の概念を拡張するものである。さらに、このネオセルフ認識機構は、自己免疫疾患の病態解明にとどまらず、免疫応答全般の理解にも大きな波及効果をもたらすことが期待される。

■ 胡桃坂 仁志 博士

<学歴・職歴>

1989 年 3 月 東京薬科大学薬学部衛生薬学科 卒業（薬剤師免許取得）
1991 年 3 月 東京薬科大学大学院薬学研究科 博士前期課程修了 薬学修士
1995 年 3 月 埼玉大学大学院理工学研究科 博士後期課程修了 博士(学術)
1995 年 6 月 National Institutes of Health（アメリカ合衆国）博士研究員
1997 年 6 月 理化学研究所 研究員
2003 年 4 月 早稲田大学理工学部 助教授（2007 年 4 月より准教授）
2008 年 4 月 早稲田大学先進理工学部 教授
2018 年 4 月～ 東京大学 定量生命科学研究所 教授
2026 年 4 月～ 九州大学 生体防御医学研究所 教授（兼務）

その他の職歴

2008 年 4 月 横浜市立大学 客員教授（2022 年 3 月まで）
2013 年 4 月 新学術領域研究「動的クロマチン構造と機能」領域代表者（2018 年 3 月まで）
2015 年 10 月 早稲田大学 総合研究機構（構造生物・創薬研究所）プロジェクト研究所 所長（2018 年 3 月まで）
2018 年 4 月～ 早稲田大学 名誉教授
2018 年 6 月～ 理化学研究所 客員主管研究員
2019 年 10 月 JST ERATO「胡桃坂クロマチンアトラスプロジェクト」研究総括（2025 年 3 月まで）
2020 年 2 月～ 東京薬科大学 客員教授
2021 年 4 月 東京大学 総長補佐（2022 年 3 月まで）
2024 年 10 月～ JST CREST「核内環境による生命力維持機構の解明」研究代表
2023 年 4 月 東京大学定量生命科学研究所 副所長（2026 年 3 月まで）
2026 年 4 月～ JST 創発的研究支援事業 プログラムオフィサー

<受賞歴>

2018 年 6 月 日本生化学会 倶進会 柿内三郎記念賞
2020 年 11 月 持田記念医学薬学振興財団 持田記念学術賞
2021 年 4 月 文部科学省 文部科学大臣表彰科学技術賞
2023 年 3 月 上原記念生命科学財団 上原賞
2025 年 3 月 東レ科学振興会 東レ科学技術賞
2026 年 2 月 島津科学技術振興財団 島津賞

<研究業績>

受賞テーマ：

クロマチン構造研究によるエピジェネティクス制御機構の解明と疾患研究への展開

胡桃坂 仁志博士は、ゲノム DNA のエピジェネティックな制御機構の解明を目指し、その基盤となるクロマチンの構造と機能に関する研究を推進してきた。独自に確立したクロマチン再構成技術と構造生物学的手法を融合することにより、同研究分野を世界的に牽引してきた。これまでに、染色体のセントロメア領域、構成的ヘテロクロマチン、転写制御領域など

を特徴づける特殊なクロマチン基盤構造を明らかにした。さらに、クライオ電子顕微鏡を用いた構造解析により、クロマチンを介した遺伝子転写、DNA 損傷修復、DNA 組換え、ならびに自然免疫関連分子の不活化など、多様な生命現象の制御機構を解明した。近年では、細胞由来のクロマチン複合体を直接可視化する ChIP-CryoEM 法を確立し、試験管内で再構成した試料にとどまらず、細胞核内に存在するクロマチン複合体の立体構造解析にも成功している。これらの成果は、クロマチンおよびエピゲノムの異常に起因するさまざまな疾患の発症機構の理解を大きく前進させるとともに、新たな治療標的の同定や創薬研究のための基盤を提供するものである。

■ FAQ

Q. 武田科学振興財団について

A. 当財団は、科学技術の研究を助成振興し、我が国の科学技術および文化の向上発展に寄与することを目的とし、武田薬品工業株式会社からの寄附を基金として 1963 年に設立されました。武田医学賞（褒賞事業）のほか、研究助成、奨学助成（外国人留学助成、医学部博士課程奨学助成、海外研究留学助成）、国際シンポジウムの開催、杏雨書屋（きょううしょおく、本草医書・東洋学を中心とした図書資料館）の運営、出版物の刊行を行っています。

Q. 武田医学賞の創設について

A. 1953 年、武田薬品工業（株）社長 六代武田長兵衛氏は、五代武田長兵衛氏の発意を受けて、創業 170 周年の記念事業として、我が国医学界の優れた研究者に対する褒賞として「武田医学賞」を贈ることを決め、1954 年にその第 1 回が大阪大学教授 久留 勝 博士に授与されました。1963 年の武田科学振興財団設立とともに、財団事業として継承されています。

Q. 武田医学賞の候補対象者について

A. 日本国内で主な業績を有し、医学の基礎および臨床の分野で顕著な業績を挙げ、医学界に優れた貢献をされた研究者を対象としています。国籍は問いません。

Q. 武田医学賞の選考方法について

A. 財団の理事、評議員、名誉顧問、武田医学賞受賞者ほか財団が定めた推薦者からの推薦をもとに、選考委員会で審議・決定します。選考委員長は自治医科大学 永井 良三 学長にお願いしています。その他の選考委員については公表しておりません。

【本件に関する問い合わせ先】

公益財団法人 武田科学振興財団 医学賞・研究助成事務局

〒541-0045 大阪府中央区道修町二丁目 3 番 6 号

TEL： 06-6233-6103 FAX： 06-6233-6112 E-mail： jyo@takeda-sci.or.jp